

若い目

平成31年2月16日(土) 南日本新聞

若い目

あいさつと笑顔

種子島中1年

藏元 寿理

私が3日間の職場体験学習で学んだことは「あいさつ」と「笑顔」の大切さです。医療センターでの体験中、私はあいさつや笑顔が、なかなかうまくできませんでした。

看護師は患者にいつも笑顔で話しかけていました。

私はその姿を見て笑顔っていいことだな、と思いました。それにあいさつは、し

た人もされた人もうれしい、感謝やお礼の気持ちもあるので、とても大事なことも思いました。

患者への思いがないとできないこと、大変なこと、知らなかった作業がたくさんありました。看護師って、難しい仕事をたくさんして人の命を支えていくのに、いつも笑顔で患者さんと関わっていて、すごいな、と思いました。

今回の職場体験学習で学んだことを生かして「あいさつ」「笑顔」を大切に生

活していけたらいいな、と思います。

(西之表市)

開校10周年記念式

平成5年2月16日(土) 南日本新聞

種子島中の 10周年祝う

西之表

西之表市種子島中学校が開校10周年を迎え、市内の10小学校長や区長ら来賓80人を招いて9日、記念式典があった。写真。

種子島中は檜城、国上、現和、安城、古田、住吉の6中学校を統合し2009年4月、旧種子島高校跡地に開校。本年度末(予定)までに1546人の卒業生を送り出してきた。人口減少に伴い、



本年度在校生(5月1日現在)は398人と初めて400人を割り込んだが、県内離島の中学校では最も生徒数が多い。

式典では旧6中学校の校旗も舞台上に掲げられた。濱元良太校長が

「各地域の思いと願いを引き継いだ10年だった。それぞれの歴史の重みと地域の期待が託されていることを改めて深く念じなければならぬ」とあいさつ。

生徒会長の2年大山瑚姫さんは「新たなスタートを切るこれから主体的に動ける種子島中をつくり、将来の種子島を引っ張っていきけるようになりたい」と決意表明した。

会場では記念誌が配られたほか、八板俊輔市長による記念講演もあった。(深野修司)